

学校法人第一学園
平成 29 年度自己評価 報告書

平成 30 年 5 月 31 日

第一学園 理事長 伊藤 博士

学校教育法第 42 条にもとづき、学校法人第一学園第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園、合志こども園、杉並台保育園における平成 29 年度自己評価を次の分類により実施した。

(1) 教師用評価項目 (全 60 項目) の分類

- ①教育計画・指導
- ②安全・衛生管理
- ③教師の資質・良識
- ④保護者・地域との連携、対応
- ⑤資質向上の取組

(2) 園長用評価項目 (全 78 項目) の分類

- ①教育内容
- ②地域の幼児教育センターとしての役割
- ③安全管理
- ④人事管理
- ⑤財務管理

平成 29 年度の自己評価のまとめとして、学校法人第一学園第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園、合志こども園、杉並台保育園の実情と評価の分析結果、今後の課題を別紙「自己評価公表シート」に記載する。

学校法人 第一学園（平成 29 年度） 自己評価公表シート

第一学園 理事長 伊藤 博士

学校法人 第一学園 第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園、合志こども園、杉並台保育園における自己評価シートをもとに、現状における本学園の実情を分析した結果、概ね以下の通りとなった。

【I】 本園の建学の精神、しせい教育（教育・保育目標、実践の指針）

1 建学の精神

一人ひとりの幼児の姿を正しく見つめ、ただ一人の幼児の心をも悲しませない血の通った教育をする。

2 教育理念

しせい教育（共育）

(1) しせい（姿勢）教育 = 教育・保育目標

自己肯定感を持って自立し、他者との調和の中に、力強く自己実現できる人間を育成する。

(2) しせい（至誠）教育 = 実践の指針

乳幼児期にふさわしい温かい環境の中で、科学的に裏付けられた適切な教育・保育を実践することによって、教育・保育目標の実現を図る。

【II】 平成 29 年度の重要な目標

1 質の高い教育・保育機関として高度の客観的評価に耐えうるよう、「しせい教育」の

理念の下、家庭、地域との密接な連携を大切に、日々の教育・保育実践の充実を図る。

2 自己評価を踏まえ、各人が「自身」と「自園」のありかたを日常的に振り返り、検

証し、改善し、より一層の「自己充実」を図る。

3 生涯貢献型の優秀な人材を採用、育成し、ワークライフバランスを考えた働きやす

い職場環境整備による継続的雇用確保のため、その環境（研修体制・福利厚生等）を充実させる。

【III】 平成 29 年度自己評価に関する取り組み方針

各人が、自己の教育・保育活動を「説明責任の視点」から見直し、振り返る。

この客観的 G・PDCA サイクルにより、より一層、教育・保育の質を高めているが、今回の評価によって更なる自己分析を行い今後取り組むべき課題を明らかにする。

評価結果より現状を分析し、分野毎に表にまとめると以下となる。

評価分野	自己分析
教育計画	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を基盤・前提として、当学園の建学の精神、教育理念に従い作成された教育・保育課程に基づく、年間（成長）計画、中期・短期の（成長）計画・日案により日々の活動を実践しつつ、常に検証し、改善することによって活動の充実を図っている。

<p>教育の実施と指導</p>	<p>重要な人的教育環境として、「しせい教育」の理念からは、共に育つ存在として自己充実を図っている、幼稚園教諭・保育士・保育教諭による、保育・教育の合理性が担保された「成長計画」に基づく、子ども達の主体性が尊重された、きめ細やかな教育・保育体制の実践が進んでいる。合理性の担保については、裏付けと説明責任を重視した「科学性」の視点に基づく、日々の実践・検証・研究・改善（G・PDCA）の過程を通じて、より一層の教育・保育内容の充実を担保している。</p> <p>「特別支援教育」については、幼児一人一人のニーズに合った支援を行っており保護者の信頼も高い。しかし、責任ある実践には、優秀な人材の確保の困難性、財政的負担の大きさ等の問題も大きいのも事実である。しかし、公益性の見地からもきわめて重要な課題として、学園全体で最大限の努力を続けることとする。</p>
<p>地域・家庭との連携と支援</p>	<p>十分な幼児教育・保育実践の為には、家庭との「教育理念」、「情報」の共有は不可欠であり、保護者との連携は当学園でも重要な教育・保育実践の柱として日常的な活動は勿論、定期的な園と保護者との情報共有・教養向上の為の「共育講座」なども開催しその充実を図っている。</p> <p>家庭と共に、子ども達を取り囲む重要な環境である地域との連携も望ましい教育・保育の実践にとって重要な課題であり、相互の交流・情報提供を密にし、園児の成長の基盤の強化を図っている。</p> <p>地域の子育て支援センターの自覚を持って一層努力する。</p>
<p>安全・衛生管理</p>	<p>日常における安全・衛生管理には最優先で注意を払っており、これまでも、「AEDの設置」「空気清浄機の設置」「監視カメラの導入」「電子錠の設置」等のハード面の充実はもちろん、ソフト面でもハザードマップの有効活用による危険の見える化、各種訓練の実施による関係者の意識・技能の向上を図ると共に、外部からの不審者の侵入への対抗手段としての男性職員の見回り等も実施しているところである。安全・衛生に関しても、「安全なくして保育なし」の視点に立ち、最も優先すべき課題として、今後も出来る限りの充実を図っていく。</p>
<p>人材確保・育成及び労務管理</p>	<p>採用については、人権に配慮するとともに、公平・公正を期している。</p> <p>本年度も、当学園の「教育理念」に賛同した優秀な人材が、多数応募してくれており、人材確保は順調である。</p> <p>人材育成についても、職員の主体性を尊重しているが、職員は、意欲的に個人として、グループとして、全体として協力して、人間としての自己充実、教師としてのスキルアップに取り組み、外部研修にも参加する等によりしっかりとした基盤に立った保育の質の向上に努力している。</p>

	<p>労務管理においては、法令に基づき、理事会の方針を踏まえ、就業規則をはじめ、種々の規定を整備し、実践しており、特段の問題は生じていない。</p> <p>人事に関しては、できる限り、各職員の意向を重視して対応している。そのことが、意欲ある保育活動にも繋がっていると考えられる。</p> <p>優秀な人材の確保育成は、学園の生命線であり、充実した教育・保育の実践の為の職場環境の一層の改善、活性化、福利厚生の実施等を全員で考え実行している。</p>
<p>財 務 管 理 と 法 人 管 理</p>	<p>財務管理は法人運営上極めて重要な位置を占めている。</p> <p>毎年度必要書類を作成して公認会計士の監査を経るとともに、年 2 回の法人役員会で協議決定されている。</p> <p>将来に備えた「財政基盤の充実」を図ると共に、①安全に節約なし、②教育・保育の充実なくして学園の存在意義はないという視点から、優先順位を考えた資金運用をしておき財政上特に問題はない。</p> <p>法人管理に関しては、「理事会」・「評議員会」を中核とし、毎月の「運営会議」「事務会議」等により適切な運営を図っている。</p>

[IV] 今後の課題と取り組み

自己評価の結果を、平成 30 年度における本学園の運営に活用していくこととする。